

11/14 早稿

論説

2023.11.14

神田謙次財務省大臣(衆議院知
ら)が辞任した。税金を担当す
る本筋の閣僚が税金特約を練
り立てるなどと非難された。元税務
官は当然だが、岸田文雄首相が冗
談後、彼女に対するとは言い
難い。任命責任に加え、政権担当
能力も厳しく問われる局面だ。

神田氏は2013~2021年、自身
が代表取締役の会社が保有する土
地と建物の「固定資産税を納付」
を回りにわざって隠し押さえを避け
ていた。週刊文春の報道内容認
め、国会で陳述していただ。

「国政の癒縫が多い」となりた
いた」などと説明したが、到底
借用や贈与など、「納税義務の適正
な実現を図る」という使命と法律
で求められた税理士が一同も達し
押さえを受けたのは、税理的不備
納上の非難を免れない。

神田氏は東大であり、税理士だけ
でなく、国会議員としても過格と
はとても言えない。議員としての
渡邊幹也の姿が浮かねがちである。
神田氏を巡っては税理税金課が
当地元の県議、市議が国会議員と
しての資質や実績に疑問を抱き、
17年衆院選では自民党本部に候補
者登録を拒め、県知事選でも公
認申請を見送った経緯がある。

神田氏の三つの政治団体は2021
年分まで4年連続で政治資金収支報告
書の提出期限を守らず、21年分
には暫定金の不記載もあった。

「うそだ地元の声ややさしくなれば
金額が明づかにならなか」、
本部はなぜハミングしたのか。岸
田氏を含む歴代議員や幹部らの資
任も問われなければならぬ。
19年の参院選立候補者不記載
た大規模な選舉違反事件も、当時の
安倍晋三首相から自民党中央が地
元の意向を無視して強引に候補者
を擁立したことが発端だ。

地元の意見が党中央に届いてい
ないことが、最近の自民体験で
旨異常候補が連敗している要因
の一つではないか。

首相が9月に副大臣・政務官人
事を行った後、政務三役が辞任し
たのは、不適切な性別関係を認め
た山田太郎前文部科学政務官、東
京都江東区長選で落選とされるま
で入管に闇手した横浜未認証法
務副大臣に次いで2人目だ。

副大臣・政務官人事は順次各
派閥の推薦を、首相がそのまま受け
入れる「派閥順送」が実態で
あり、3人の辞任が露意が明らか
になつた。「渡辺幹也」といふと
相の言葉など、誰が信じよう。

議員の適格性も欠く

神田副大臣辞任